八 碁 連 だ よ り

１月号　　第２８１号

発行日　平成２７年１月１日（水）
発行所　八王子囲碁連盟
住　所　八王子市東浅川町５６７－１－３０９
電　話　０４２－６６３－５４４６
発行者　南　正一郎
編集者　松崎　邦夫

高尾山　蛸杉

http://homepage3.nifty.com/yasu1120/hatigoren.html

八王子囲碁連盟の目的

八碁連は、八王子市内に居住する囲碁愛好者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるよう機会を提供し、福祉の増進に寄与するとともに、棋力の向上を図ることを目的とする。

生き残る奕（注１）

由木囲碁同好会々長　　市谷　智雄

坐隠談叢（注２）に「碁は孔子、孟子の語録から察して、殷、周以前に発明されたことは疑う余地がない所」（原文注３）と記載されています。

殷朝は紀元前十七世紀、周朝は同十一世紀頃建国されています。碁は更に古く三～四千年の歴史があることになります。古えのことは誇張表現のクセのある支那人のこととしても、三国志には関羽が毒矢の当った腕の手術を碁を打ち乍ら受けたとの記載があり、又シルクロードのトルファンの遺跡から碁を打つ女性の壁画が見つかっています。少なく共三千年以上昔には、今と同ルールで以て碁が楽しまれていたことは間違いのない所のようです。

これは驚くべきことで、世界中の数ある遊戯の中でこのように長い歴史を持つものが他にあるでしょうか。チェス、トランプ、花札、麻雀、パチンコ、ルーレット等でどれをとっても高々長くて数百年程度です。遊戯や芸事でなく、四千年以上昔に存在して、今尚現代人が重宝するものは、外にはありません。四千年前と言えば、日本は縄文時代で、ギリシャ、ローマ文明も生じておらず。わずかにエジプトでピラミッドが建設されていた時代です。現在の物質文明を主流とする近代工業化社会も茲々二～三百年程度です。
最も古いと思われる仏教ですら二千六百年、キリスト教の発生は二千年位前のことです。

碁は四千年間東洋人の中に、重用され楽しまれています。しかも技術的には進歩しつつあり、更に世界中に広がりつつ発展しています。他の文化、哲学、政治思想等は、時代の経過と共に大きく、革命的に変遷又は消滅しても碁だけはその時のその時代の人達に愛され大きな変化もなく生き残ってきました。これは、碁というものが、余程人間の本性と合致する要素を含んでいるとしか思われません。そして、技の向上には単に技術的要素丈でなく、精神的にも奥深く、修養の道具としても評価されてきたのではないかと推察されます。

私達も碁に接し、覚えた以上、只打っている丈でなく「ピラミッドの建設から宇宙ロケット、インターネットの時代になっても捨てられることなく重用されるのは何故か」考えて見ることも価値あることと思います。今までとは違った、碁の持つ「奥深さ」「崇高さ」を発見、又より碁に魅了され、楽しみが倍化するかも知れません。そして後世の人に確実に伝えることも大切なことと自覚することになるでしょう。

注１　奕（エキ）：古代より昭和初期まで日中で使われた碁の本字です。
注２　坐隠談叢（ザインダンソ）：碁の発生、日本への伝来から明治中期頃までの碁の流れを記した書物。
　　安藤如意の原作で明治３８年刊行されました
注３　原文：孔子の所謂以奕為為之猶賢乎己が如き、将た孟子の以奕え為数不恵心致志則不得との如きを知照せば遠く殷周以前に発明せられたる者たるは争ふ可らざるが如し

２２回　八碁連タイトル囲碁大会のご案内

日　時　　平成２７年２月８日（日）　受付　午前９時～９時３０分
場　所　　東浅川保健福祉センター　４階（東浅川５５１－１　　電話　６６７－１３３１）
主　催　　八王子囲碁連盟（八碁連）　　後　援　　八王子市、日本棋院
参加資格　各地区同好会の平成２６年度前期・後期のタイトル獲得者（タイトル獲得者が参加できないときは、届済みの準優勝者が代わりに参加できます）
参加費　　１０００円
競技方法　八碁連方式　　出場者を決めて２月１日までに下記へ連絡ください
連絡先　　理事 竹内朝晴　　住所 １９２－０１５４　下恩方町 ９１１－３
電話 ６５１－１２４７　メール tomoharu1942@gmail.com

１月の囲碁大会（１２月号掲載）

第１６回棋聖大賞囲碁大会

日　　時　　平成２７年１月１８日(日)　　午前９時 10 分受付開始
場　　所　　東淺川保健福祉センター
参加資格　　八碁連相談役、技術顧問、指導員、特別任務委嘱者、研修部事務長
地区同好会会長ほか１名、７段以上の会員、理事、
（参加該当者にはすでに案内済みです）

第２４回　活きいき囲碁大会の結果

台町　　１２月１４日(日)　於　台町市民センター

参加者　７０名

浅川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	由木	北野	長房	川口	南大沢	非会員	合計
３	７	３	６	１１	０	１３	０	６	９	２	３	１	６４

A組　２０名（5段～7段）
優勝：池田正三　大和田/６段　準優勝：磯部信広　中野/６段　３位：古賀照也　北野/６段
B組　２２名（2段～4段）
優勝：根本　清　大和田/２段→３段　準優勝：野沢市郎　恩方/４段　３位：成田　滋　大和田/３段
C組　２２名（6級～初段）
優勝：長谷山敏幸　大和田/初段→２段　準優勝：高橋俊文　大和田/１級　３位：小澤敦司　恩方/２級

第２５回　八碁連囲碁大会（２段以下）の結果

八碁連囲碁大会２段以下の部が１１月３０日行われ下記３名のかたが高齢表彰されました

〈高齢表彰者〉

由木　長島　健治（初段）　由木　川野　吉弘（２級　）　長房　西村　宏（初段）

〈大会の結果　〉

参加者（名）	優　勝	準優勝	第３位
A組（２段～１級） １８名	池本伸吾　２段/南大沢 →３段に昇格	長谷山俊幸　初段/大和田	正岡得達　２段/浅川
B組（２段～２級） １８名	遠藤　博　２段/石川 →３段に昇格	中谷勝信　２段/川口	芹沢靖彦　２段/長房
C組（２級～初段） １３名	鈴木富士雄　４級/長房 →３級に昇格	中込義弘　２級/長房	山本公明　２段/恩方

注）C組は理事の調整ミスで１３名になってしまったので、今回は３級に昇格としました。

◎活きいき囲碁大会参加者数の推移

年度	淺川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	由木	北野	長房	川口	合計
22	68	83	74	47	53	42	52	45	42	75	66	647
23	60	79	72	48	64	49	62	54	74	69	58	689
24	80	74	68	52	68	58	58	64	74	67	54	717
25	65	74	56	54	61	62	54	54	65	70	55	670
26	57	71	58	60	77	60	64	77	88	70	71	753

由木の２６年度は（由木&南大沢）です

◎　26年度地区別活きいき囲碁大会参加者数

	浅川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	由木	北野	長房	川口	南大沢	非会員	計
浅川	２２	４	０	２	７	０	２	０	４	１０	４	１	１	５７
恩方	３	３３	４	３	４	１	１	１	３	６	３	２	７	７１
元八	１	１１	１７	３	７	１	２	０	１	１０	４	１	０	５８
中野	４	７	７	１４	６	３	２	０	５	５	４	２	１	６０
大和田	５	７	３	７	２０	４	１	０	１０	９	７	３	１	７７
石川	２	６	１	５	９	１９	２	２	７	１	２	４	０	６０
台町	３	７	３	６	１１	０	１３	０	６	９	２	３	１	６４
由・南	４	１	０	３	７	１	２	１２	１４	６	３	１７	７	７７
北野	５	６	１	２	７	３	０	２	４０	８	３	６	５	８８
長房	４	９	７	５	７	０	１	０	４	２４	５	３	１	７０
川口	４	１０	９	４	１２	０	０	０	４	５	２０	３	０	７１
計	５７	１０１	５２	５４	９７	３２	２６	１７	９８	９３	５７	４５	２４	７５３

注）（由・南）　は（ 由木&南大沢）　のことです

投稿

左脳と右脳の働きは

長房囲碁同好会　池口隆久

囲碁のアマ名人三浦浩氏が立川高校在学中、数学を担当していた玉置先生が転任してきた。私の勤めていた昭和高校に。しかも、彼の娘さんが私のクラスにいた。土曜日の午後によく立川に住む福原さん（数学科教諭）のうちに、玉置先生と連れ立って、碁を打ちに出かけた。たまには、内山先生（五商の数学科教諭）も来ていたが。内山さんは教育大で囲碁部のキャプテンをつとめていただけあってめっぽう強かった。彼の持論は、「碁というのは、石と石のぶつかり合いであって、戦いなのだ」ということであった。だから、地合いなど気にしないで、どんどん戦うべきだという。福原さんは天才的なところがあって、碁を打つたびに、対戦相手から知識と技を吸収し進歩しめきめき腕を上げる名人肌の人だった。

碁の手合いのあい間に、玉置先生がふともらしたことがあった、「碁に必要なのは幾何学的な考え方じゃないですか。図形が碁盤の上に描ける人は強くなると思いますよ。三浦君とも碁を打ったことがあるが、彼は高校生頃から強かったですな」と。

玉置先生の論で行くと、右脳が碁の進歩に大きな働きをすることになる。左脳は、文字とか数字、計算などと深く関係があることは知られている。いわば、理知的な分野をつかさどるとされている。右脳の働きは、芸術的な方面、直感的な働きと関係があるとされている。彼のいうには、幾何が好きな人は碁の進歩も速いという。こう考えると私は落ち込んでしまう。学生時代に、代数は好きだったが幾何学はあまり得意ではなかったからだ。どちらかというと不得意の分野だった。

放課後、玉置先生を誘って碁を打ったこともある。すると、私は五子置かせてもらっていたが、途中、何手か打つと彼は「いやあ、池口さんにはかなわないなあ」という。私も心得たもので「いくら娘さんが私のクラスにいるからって、手加減しないでください」と釘を刺すが、最後は適当に勝をゆずってくれる。これじゃ碁にはならない。

碁の研究をする前に、幾何学を勉強しなおしたらと思ったこともあったが、いまさらその決断も出来ない。どっちつかずの碁は、いまだに進歩が止まったままである。

日本棋院八碁連支部コーナー

日本棋院ファン感謝囲碁祭りが１１月２２日（土）日本棋院本院で開催。午前、午後に分かれ各種のイベントが行われました。八碁連支部からは　信江　峻、磯部信広、端山昌夫、三島敏明、望月成一が参加、プロ棋士の指導碁を受け楽しい充実した時間を過ごすことが出来ました。

今年度の事業計画は全てが終了。

来年度の事業計画は３月の総会で発表する予定です。

◎第２回会長会開催

日　時　　平成２６年１１月２１日（金）

出席者　　地区会長１１名、理事６名（井出理事、望月理事は地区会長と重複）

議　題　　会員を増やす取り組みについての相談

１　理事会よりの提案とそれに対する意見

八碁連規約では会員数１５名以上などの制約があり会員勧誘が難しい。そのため理事会より新たに下記のような準会員制度を設け会員を勧誘することを提案した。

準会員：人数５人以上、現在の同好会に課せられている責務（活きいき大会の主催、競技委員を出すこと等）の免除など

しかし、提案のような「条件を緩和した準会員制度」は、そちらの方がいいと考え、活きいき大会をやめようとする動きなどがでてきて、歯止めがきかなくなる恐れがある。そのため現行規約の中で会員を増やすことを考えるべきとの意見が大勢を占めた。

準会員制度への賛成意見はなく、そうすることにより現体制に綻びが生ずる危惧があり、理事会では今後現規約内で会員増を計ることを検討することになった。

２ 同好会での試み

・級位者の棋力を上げるため、高段者との対戦を行い、考えなどを習得してもらっている。

・住民協と連携して、大会を実施する等して、関係強化を心掛けている。

・同好会内で楽しむことを考える。例えば団体戦をする等。

３ その他

・５年先、平均年齢がより高くなった時の体制をどうするかの検討が大事である。

・八碁連大会も競技委員を同好会から出し、経験をさせた方が良い。

◎第１０回八碁連理事会

日時　　平成２６年１１月２２日（土）

出席者　出席者　理事６名

議案　　１．棋聖大賞大会実施要綱確認

２．会員獲得の件

今後、調査で判明した１５人以上のグループに声をかけてみることになった。

３．その他

総会資料作成の分担及び日程を決める

編集後記　　温暖化と言われながら、何故か厳しいこの寒さ。この季節、入浴中の事故が多いと聞きます。寒い脱衣所と浴室で血管が収縮して血圧が上がり、暖かい湯につかり血管が拡張して血圧が下がる。この急激な温度変化で心筋梗塞や脳梗塞になる心配があります。対策としては、脱衣所を電気ストーブなどで暖めたり、あらかじめ浴槽の蓋を開け浴室を蒸気で充満しておくなど、です。事故は高齢者に多いそうです。厳寒の折、ご自愛を！